

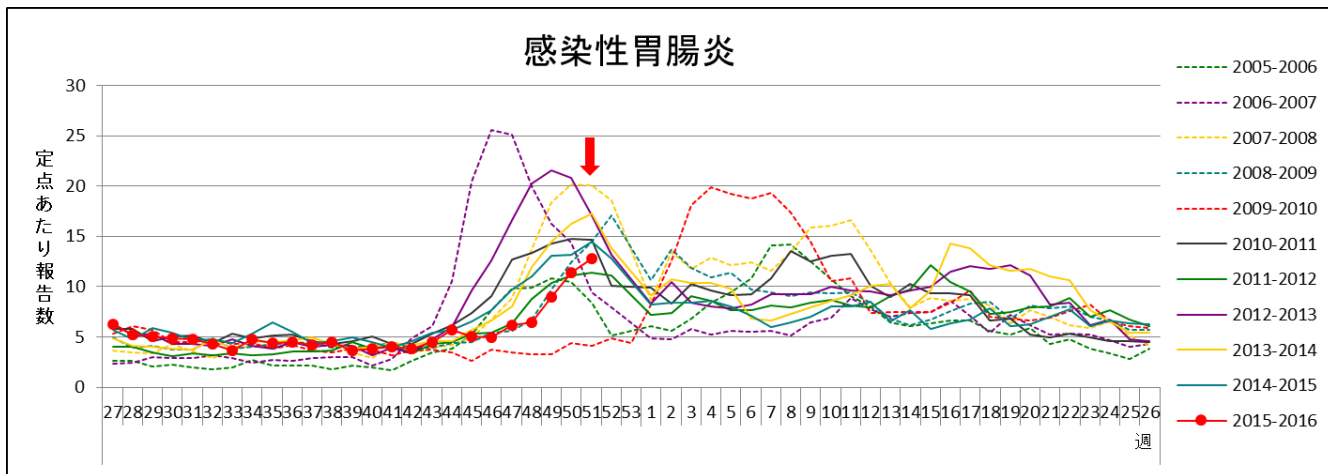
感染性胃腸炎週報 2015年 第51週 (12月14日～12月20日)

【お知らせ】次週、2015年第52週(12/21～12/27)の感染性胃腸炎週報は、2016年1月7日(木)13:00にホームページへ掲載いたします。

○感染性胃腸炎は、県全体で692名(定点あたり11.43 → 12.81人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。

【第52週 速報】

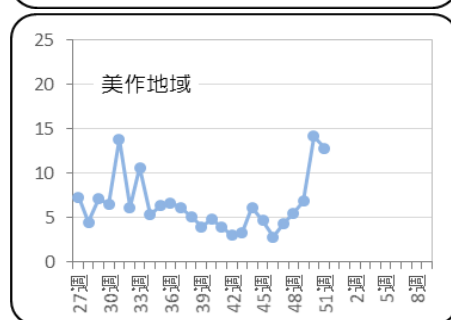
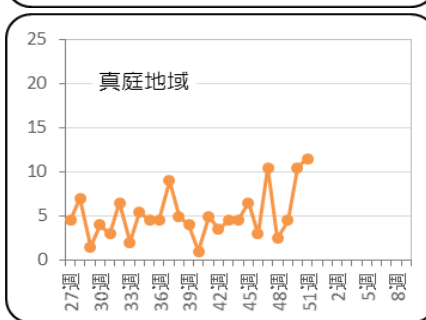
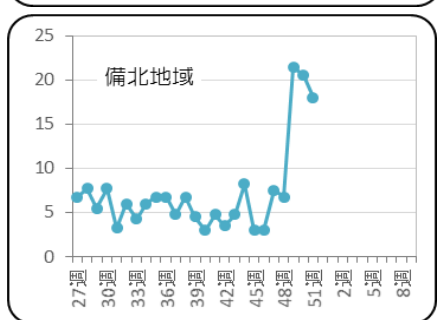
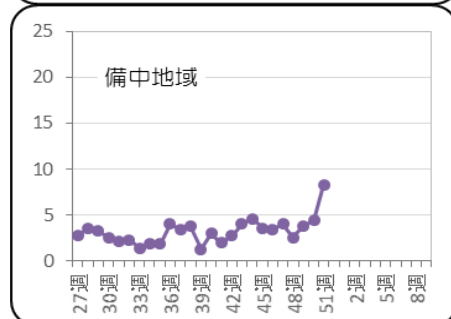
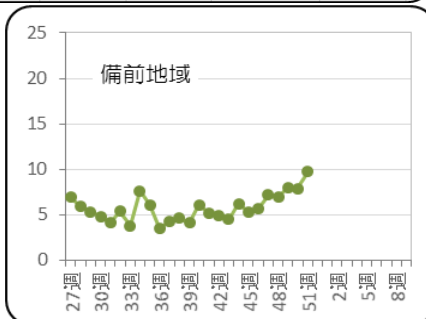
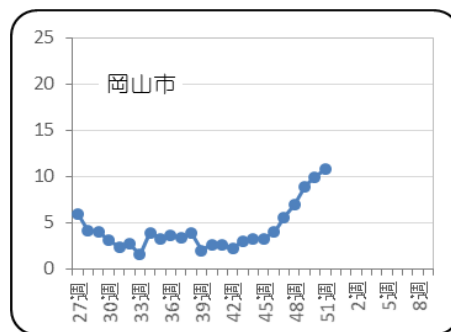
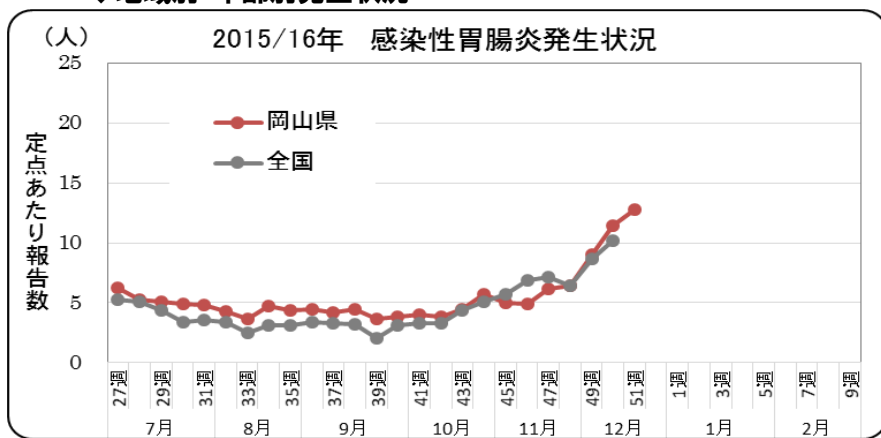
○感染性胃腸炎による学校等の臨時休業が2施設でありました。(12月21～22日)



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

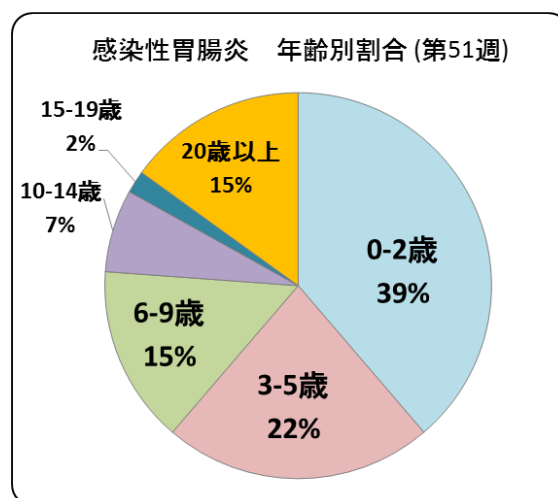
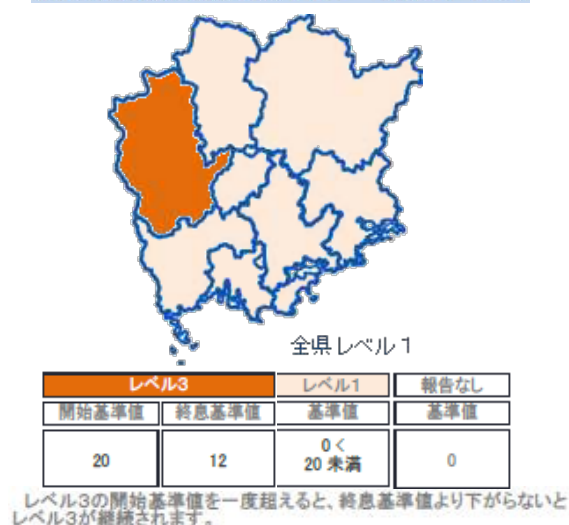
感染性胃腸炎は、県全体で692名(定点あたり11.43 → 12.81人)の報告があり、前週より増加しました。第46週以降、定点あたり報告数の増加が続いており、第52週には、総社市の小学校及び高梁市の幼稚園で感染性胃腸炎による臨時休業も報告されています。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、倉敷市（19.45人）、備北地域（18.00人）、美作地域（12.83人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域では、前週にひきつづき「発生レベル3」となっています。年齢別割合では、0-2歳が39%と最も高く、次いで3-5歳 22%、6-9歳 15%の順となっています。

感染性胃腸炎感染症マップ 2015年 51週



ウイルスを原因とする感染性胃腸炎の治療は、特別な薬がないため、対症療法が中心です。通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

1. **最も大切なことは手を洗うことです。**
排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
2. **処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。**
おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。アルコールは、ノロウイルスに対して消毒効果が低いとされています。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。
3. **おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）の消毒が有効です。**
おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。
※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。
4. **食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）**
二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

